

どのように手助けを

ジャッキーが子供達に、正しい教育を受けてもらいたいという夢を叶えるためにはたくさん方法があります。大人の方は子供達に、社会人になったらジャッキーに寄付をする事を奨励して頂ければと思います。

例えば、こんな工夫で子供達と大人がチャリティーでお金を集めることができます。

手作りの工芸品を地元のチャリティーバザールやイベントの時に販売する。
誕生日プレゼントを断って、その代わりにお金をもらい、チャリティーに寄付する。
街角で音楽の演奏等をする。
知人に声がけをして、イベントの際に寄付金を募る。例えば、テニス、サイクリングや何かの集まりを目的としたもの。
ボーイスカウト、同級生同士、友達同士で描いた絵を寄贈する。



ジャッキーは言いました。

「大事なはいくら寄付したかではなく、貴方の真心です。1ドルで建てる学校とドラゴン・ハート・プロジェクトを応援して頂きありがとうございます。僕はわずか1ド

ル、1円でも無駄にすることなく子供達のために使い、送ってくれた絵は全て保管して、将来みんなに見てもらおうと思っています。」

皆さんが寄贈してくれた絵等は、以下の宛で受け付けています。

Build a School for a Dollar
c/o The JC Group
145 Waterloo Road
Kowloon, Hong Kong

ネットでの寄付は www.jackiechan.com/charity/donate まで。Dragon's Heart Foundation をクリックして下さい。ありがとうございます!

また、www.jackiechan.com にアクセスすれば「1ドルで建てる学校」プロジェクトについて、もっと理解して頂けると思います。Kids Corner をクリックした後、リンクに従って下さい。

ジャッキー・チェン



1ドルで建てる学校



ジャッキー・チェンの「1ドルで建てる学校 / 龍子心」と「ドラゴン・ハート・プロジェクト / 龍的心」について



ジャッキー・チェンが2004年に設立した「ドラゴン・ハート・プロジェクト」は中国国内の貧困地域や僻地で子供達が学校へ行けるよう手助けをし、貧しい人達を救ってきました。2004年の開始以来、ジャッキーはこれらの場所を訪れ、愛の心を持って貧困に苦しむ子供達、身体障害者、それに高齢者を応援しています。ドラゴン・ハート・プロジェクトの義援金はチャリティーオークションや個人的募金により、現在既に中国国内には20を越える学校、ヘルスケア・センター、老人ホームが建設されています。最近、ドラゴン・ハート・プロジェクトは2008年5月12日の四川大地震で影響を受けた地域に学校を

再建中です。

2006年8月、ジャッキーは自身のオフィシャル・ウェブサイトで、ある面白くて意義のある方法で子供達に彼が携わるチャリティー事業に参加することを呼びかけました。それは1ドルで学校を建てようというものです。ジャッキーは子供達に自分がお金を寄付することで、施しの精神を学んでもらうことを奨励しています。さらに多くの寄付を奨励するために、子供達にも多少のお金を寄付してもらい、ジャッキー自身も同じ金額を寄付するというものです。計画が始まって以来、ジャッキーは世界各地の子供達から送られてきたお金を受け取りました。そのほとんどはわずか1ドルでしたが、ある子供達はそれ以上のお金をジャッキー宛に送ってきました。その上、大人もこのプロジェクトに参加し、違ったルートで「1ドルで建てる学校」プロジェクトに寄付してくれました。2008年10月までにジャッキーのファンは既に5万米ドル(約525万円)以上を越える寄付をしてくれましたが、そのうちのほとんどはわずかな金額でした。それにジャッキーが同じ金額を加えて寄付したので、既にドラゴン・ハート学校1校が建つに充分なお金となりました。近い将来、2校目の学校が建つだけの寄付が集まるでしょう。

ドラゴン・ハート・プロジェクトは正式登録されたチャリティー計画で、1ドルの寄付は、全て直接ドラゴン・ハート・チャリティー基金として役立させて頂きます。金額の多い少ないに関わらず、皆さんからご協力をお願い致します。



Build a School
For a Dollar

概念

子供達が自分のお金を画用紙に貼る…その紙幣が学校を建てるために重要なものとなります。子供達はこの紙幣を囲んで、クレヨンや色鉛筆で学校を描きました。以下は、二人の若いファンから寄せられた2枚の絵です。



計画が始まってから今まで、ジャッキーのファンは色々な創意工夫を凝らしてチャリティーを計画してくれました。子供達が両親や先生達に声をかけたことで、次第に多くの人達がこの計画に参加することになりました。1ドルで建てる学校計画は次第に世界規模となり、2年もかからないうちに目的を達することが出来ました。ジャッキーはこの計画を続ける事を決め、さらに多くの学校を建てられるようにと寄付を募っています。

計画の過程でジャッキーは心から感謝の意を表し、自身のオフィシャル・ウェブサイト www.jackiechan.com に彼と贈呈された品物の写真を載せています。

